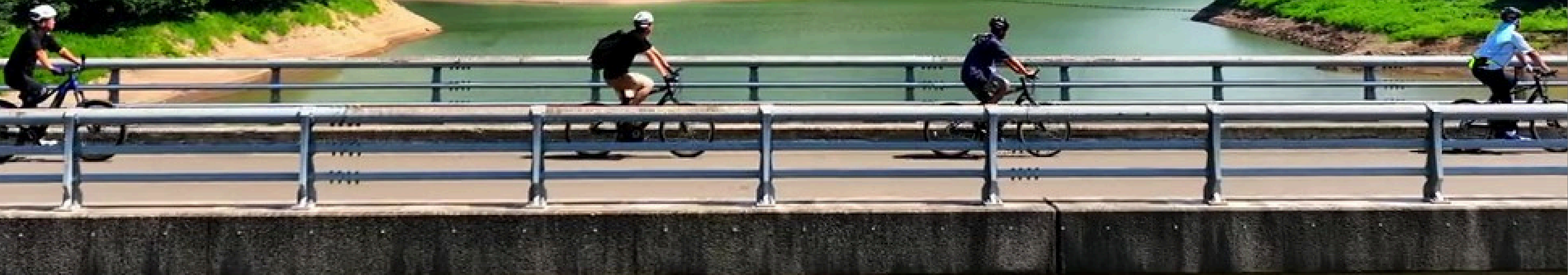


第34次地方制度調査会小委員会 2026年3月30日

忠犬ハチ公の生誕地 北東北 大館市 「子や孫世代と共に栄える」取り組み紹介





Odate city 大館市

人口

64,164人 ※令和7年12月末時点

世帯数

30,939世帯 ※令和7年12月末時点

人口減少

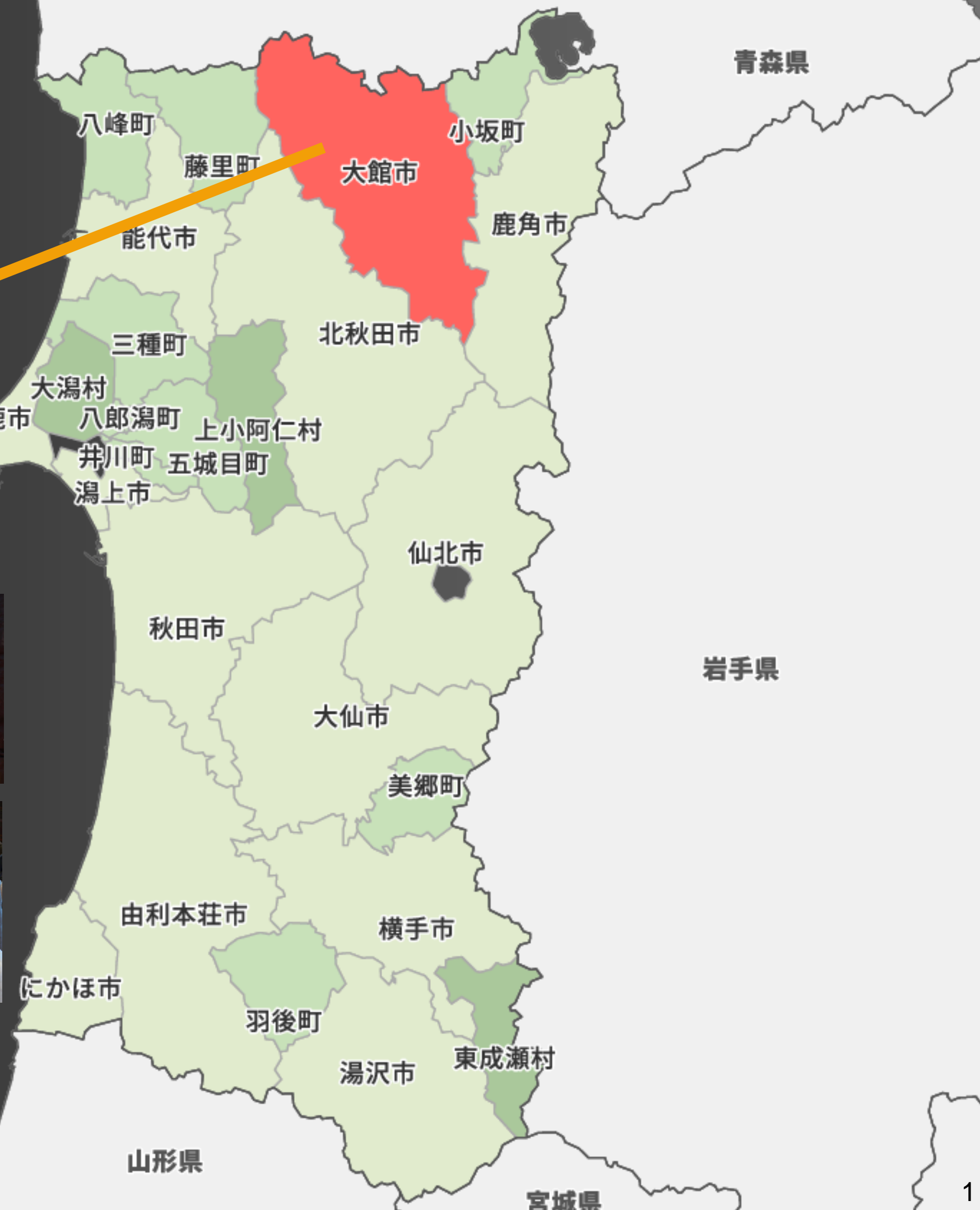
毎年約1,000人減少

高齢化率

約4割（65歳以上）

出生数

222人/年（直近3カ年平均）





人口減少社会における除排雪の取り組み | 国・県・市のスクラム除雪 (県内初)

市立病院

秋田県北部地域唯一の周産期母子医療センターの大館市立総合病院 (救命救急センター) へ命をつなぐアクセス確保



大館市役所

 国道7号 (スクラム除雪区間)

 大館市道から国道7号へ

 秋田県道から国道7号へ





人口減少社会における道路等の維持管理 | 包括的民間委託

群マネモデル地域

◎全国で11件（合計40地方公共団体）

● 垂直連携地域

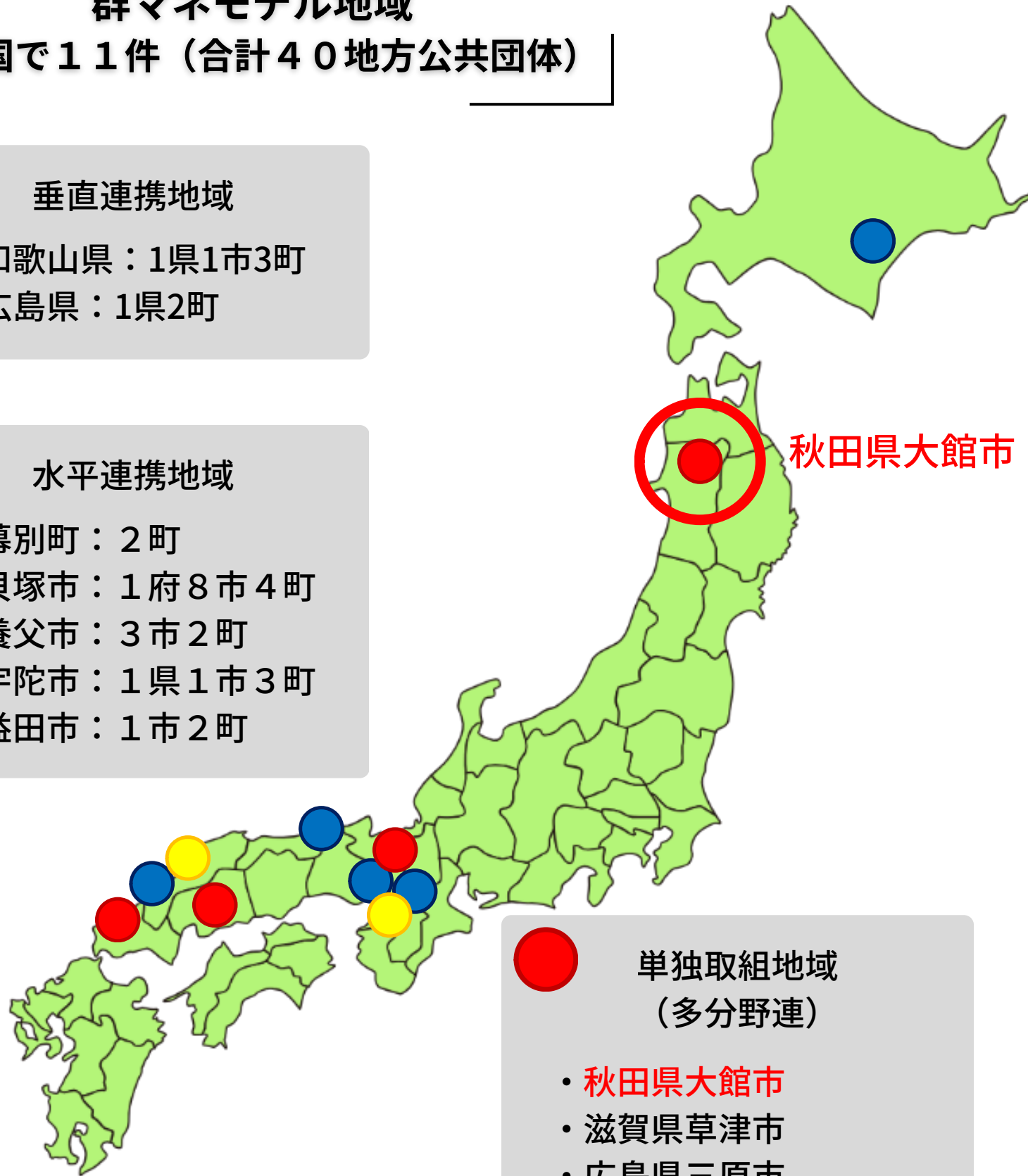
- ・和歌山県：1県1市3町
- ・広島県：1県2町

● 水平連携地域

- ・幕別町：2町
- ・貝塚市：1府8市4町
- ・養父市：3市2町
- ・宇陀市：1県1市3町
- ・益田市：1市2町

● 単独取組地域 (多分野連)

- ・秋田県大館市
- ・滋賀県草津市
- ・広島県三原市
- ・山口県下関市



包括エリア図

面積

913.22km²

道路

約900km

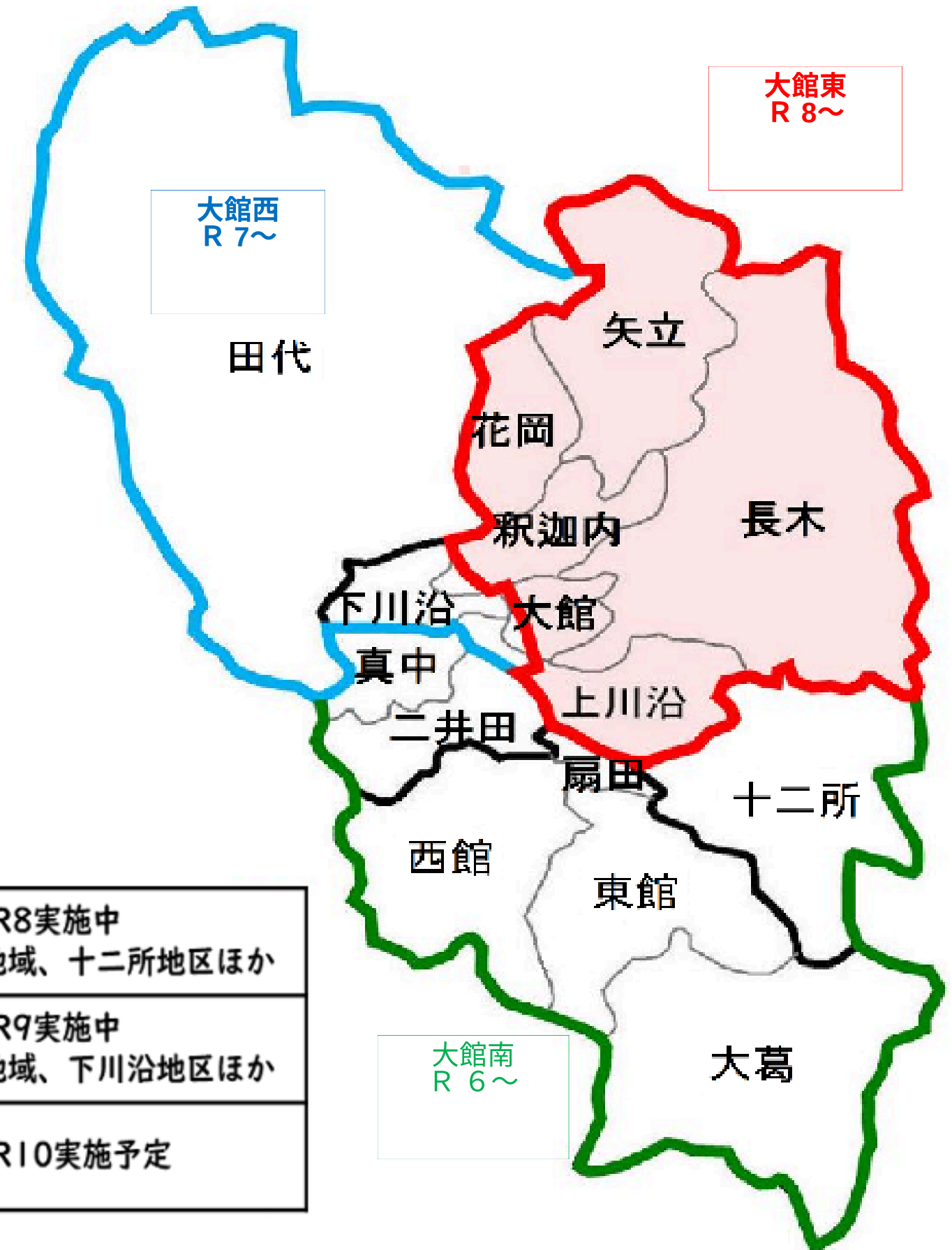
橋梁

442橋

河川

356km

	R6~R8実施中 比内地域、十二所地区ほか
	R7~R9実施中 田代地域、下川沿地区ほか
	R8~R10実施予定





包括的民間委託によるインセンティブ

業務内容

全般マネジメント

道路補修・清掃

道路街路樹剪定・防除

河川雑木枝切り伐採

街区公園草刈

全般巡回

道路路肩草刈

道路雑木枝切り・伐採

街区公園樹木の剪定防除

下水路浚渫・草刈り

	これまでの発注方式	包括的民間委託
規定	使用規定	性能規定
インセンティブ	なし	長持ちさせる/出動を減らす

▶ 維持管理業務を全て「性能規定」とし、民間事業者の創意工夫やノウハウを最大限発揮できる制度設計

▶ 一番の成果は、事業者が管理者の視点で業務を遂行

今後

市民参加型のインフラ
維持管理の実証へ



①道路点検DX

- GLOBAL-EYEZによる道路点検(スマホで録画・記録)
- ➡点検結果をシステムでAI解析(集約結果を補修へ活用)



- 本技術は、国土交通省 NETIS登録技術
- ➡道路パトロールと路面点検が同時に実施可能
- ➡可視化に加え、振動による弊害も測定、評価

実用性と汎用性を高め、サービス向上へ

②面的舗装補修

- 新材料・新工法で舗装補修を試験施工
- ➡JV構成企業の本社やグループ企業が協力

試験施工 ➡ 経過観察 ➡ 考察・検証
➡ 最適方策を精査後、実証エリア拡大

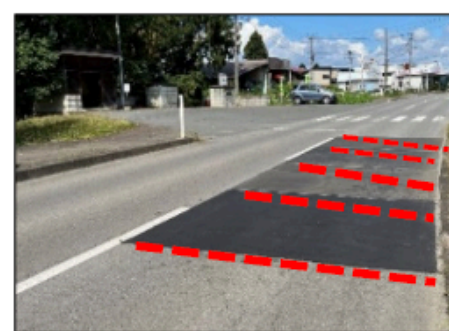
柔軟性と強靭性を
兼備する新素材



柵・マンホール周辺



4種類の合材で施工



(大館南地域JVで施工)

- 従来手法の補修、修繕では資金も工期も限界
- ➡現地の状況に相応しい材料、工法を幅広く試験
- ➡機材や人手も地元で手配できる方策を実践中

損傷が著しい舗装の耐久性や延命効果を期待

- 上記システムで道路点検した結果、ひび割れ率が40%以上を占める「早期に補修すべき道路」が約25%に達している現状を改善
- 「面的表面処理」の試験施工 ➡ 延命や予防保全効果を調査研究中
- 現場条件とライフサイクルコストを考慮した舗装補修の在り方を模索
- ➡ 予防保全型管理 + 延命措置(スラリー状の材料で面的舗装補修)
- ➡ 損傷が著しい舗装へ、一定規模の投資(修繕・補修・改良)





現状

- 国県市スクラム除雪
- 市単独 包括的民間委託



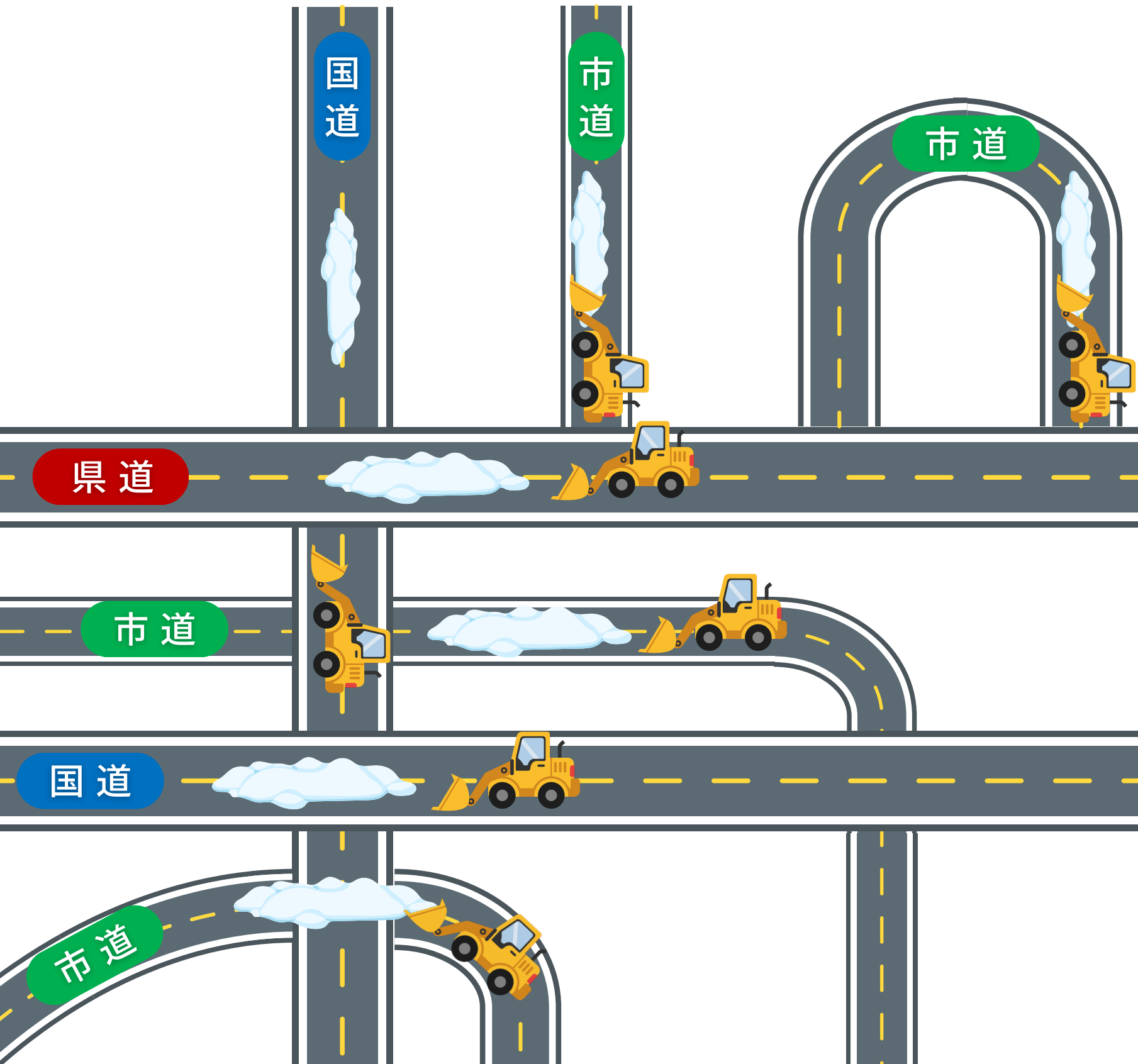
将来

- 人、重機、予算を含むエリアによる包括的除排雪
- 包括的民間委託によるインフラ整備の近隣市町村や国、県との連携

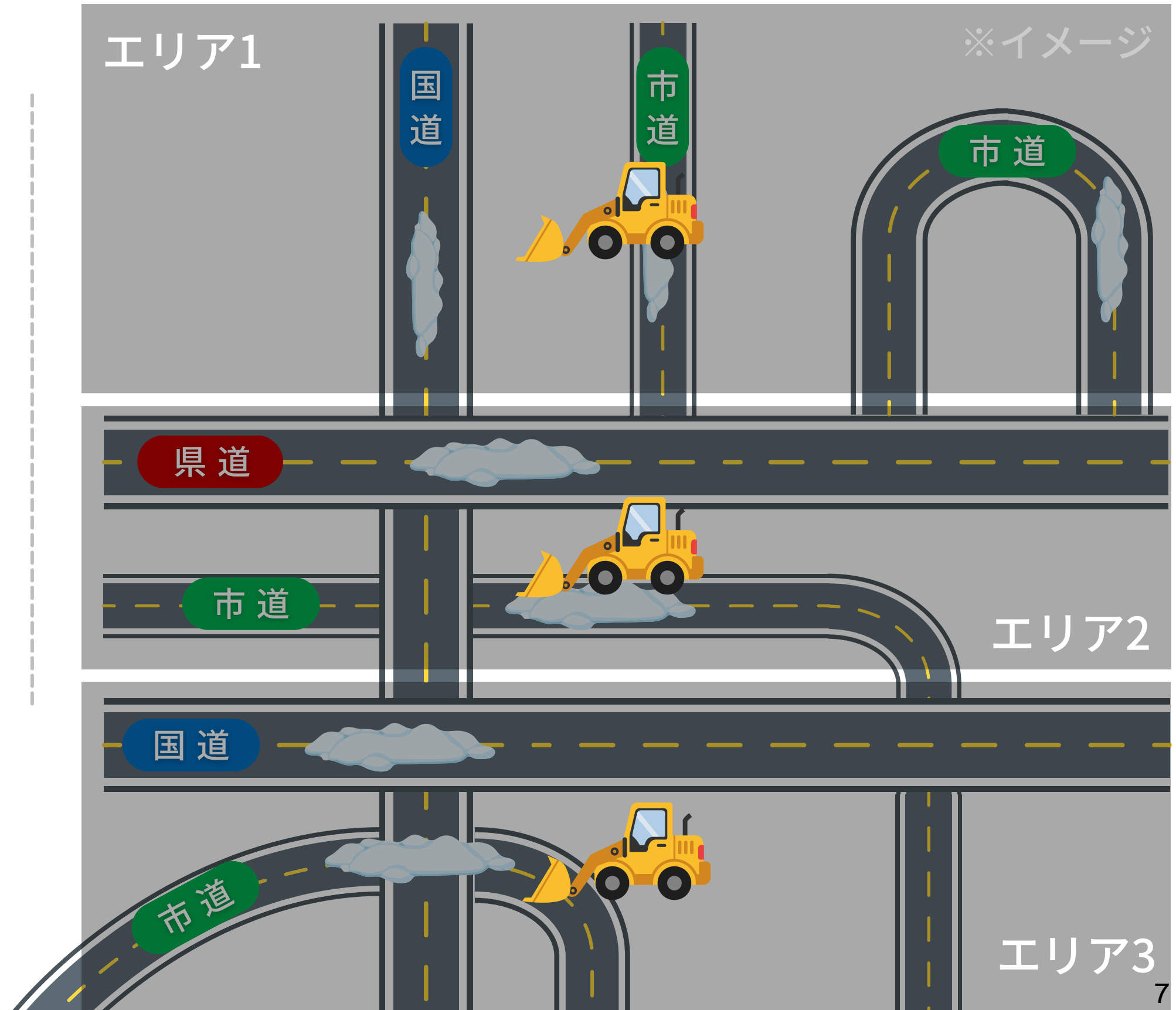


人口減少社会における除排雪や道路等の維持管理のあり方 | 大館市が目指す方向性

これまでの除排雪体制



人・重機・予算を含むエリアによる包括的除排雪の可能性



子や孫世代と共に栄える大館へ

インフラ基盤を未来へつなぐために

線ではなく面でインフラの維持管理へ

仕組みづくり

効率化

ネットワーク
拡大

広域連携

インセンティブ
設計

事業者・住民が
主体的に動く



地域医療を取り巻く課題

全国的な課題

医療従事者不足

医療機関の経営危機

医療機能集約

患者のアクセス

秋田県北部の状況

4市4町1村で構成

人口は約19万人

全自治体が過疎地域及び豪雪地帯

顕著な人口減少率

医療人材確保が困難

診療機能縮小の進行



【二次医療圏の再編】

県では、人口減少、医療人材不足、効率的な医療提供の維持を目的として、令和6年度から医療圏を8つから3つに再編
 本市を含む県北部では、3つから1つに再編



二次医療圏における大館市立病院の役割と課題

大館市立総合病院



圏域中核病院

基幹型臨床研修病院

地域救命救急センター

小児医療・結核医療

精神科救急地域拠点病院

感染症医療

地域周産期母子医療センター

大館市立扇田病院



回復期・慢性期医療

外来・総合診療

検診事業

在宅医療・訪問診療

今後

無床診療所化が必要

104床→R7年度40床→R9年度0床

同時に病床の
他病院との
連携が必要



病床の
他病院との
連携が必要



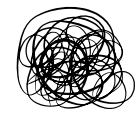
地域医療連携推進法人「北鹿ヘルスケアネット」設立



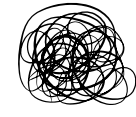
令和6年12月12日 設立調印式



課題



患者減少や医療従事者不足のもとでは
病院単体で機能維持は困難

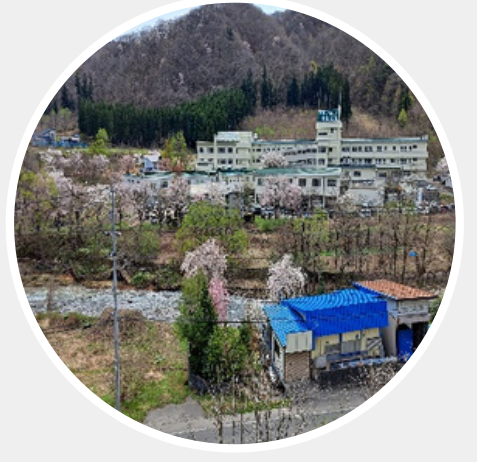


介護の現場でも、介護従事者不足が顕在化し、
医療と介護の更なる連携強化が急務



大館市

- ・ 総合病院
- ・ 扇田病院



医療法人楽山会

大湯リハビリ温泉病院 他

北鹿ヘルスケア ネット

急性期、回復期、慢性期医療から
介護サービスまでを、切れ目なく
包括的に提供していくために
「地域医療連携推進法人」を設立

今後加盟団体拡大
予定



医療法人健永会

大館記念病院

社会福祉法人 大館市社会福祉 事業団

- ・ 特養 つくし苑
- ・ 養老 成章園





1 医療従事者の相互派遣

- 地域全体としての医療提供体制の維持
- 人が行き来することでノウハウの共有が進む

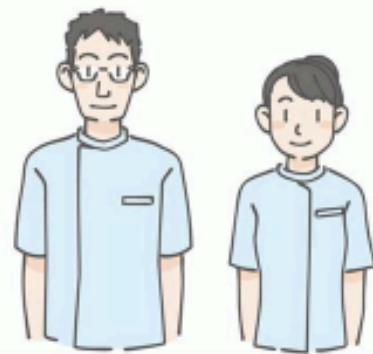
大館市立総合病院



協定締結



大湯温泉リハビリ病院



看護師2名 R7.2月から
(現在は1名)

大湯温泉リハビリ病院の入院
患者受入れ体制を維持(地域の
必要病床の維持)



理学療法士1名 R7.4月から
総合病院のリハビリ需要の
増加に対応





2 参加病院の円滑な体制移行(病床縮小)

- 地域全体としての医療提供体制の維持

扇田病院



連携病院



扇田病院でR7.4月から、1病棟(42床)廃止(患者減少と看護師確保困難のため)。
この減床の際、病院間で病床稼働率等を常に共有するなど、連携して患者受入れに努めた結果、
地域全体として円滑に移行した。
同病院のR9.4月からの無床化にあたっては、連携強化により安心してもらえる医療提供を目指す。



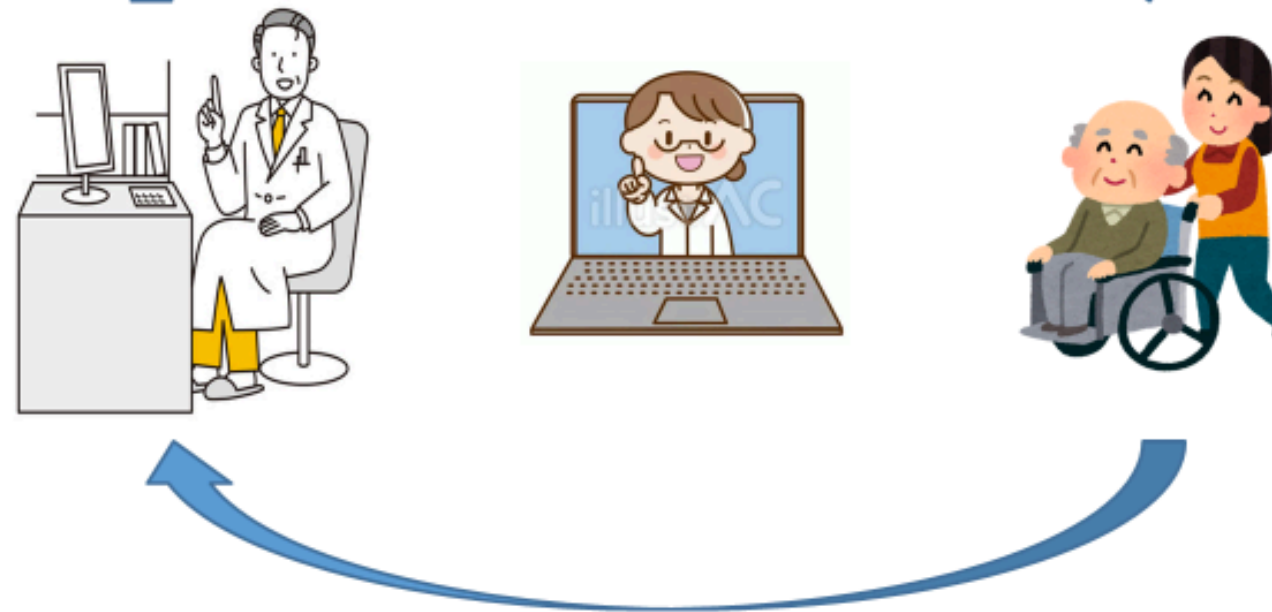
3 オンライン診療の実施

- 施設入所者の通院の負担軽減
- 通院を半日ばかりで介助する**施設職員の大幅な負担軽減**
- スタッフの拘束時間の緩和

大館市立総合病院



特別養護老人ホームつくし苑
養護老人ホーム成章園

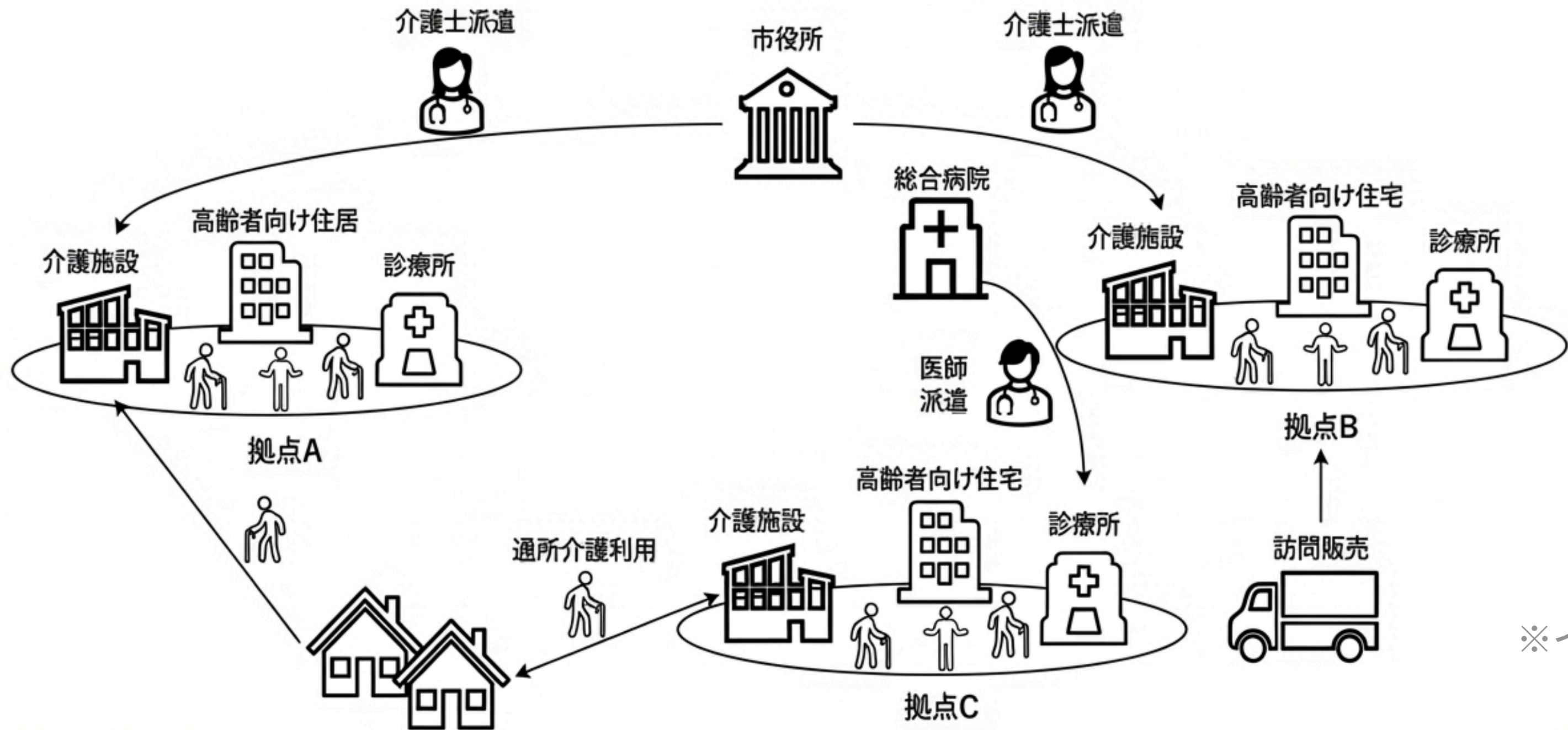


参加法人の施設入所者に対し、施設職員のサポートを得ながら大館市立総合病院の医師がオンライン診療を行っている。



将来

“将来の構想”として、市立総合病院の医師が参加法人の施設に出向き、市街地への通院が困難な入所者及び施設近隣住民の診療を行う『サテライト診療所（小さな拠点）』の運用開始を目指す。



※イメージ



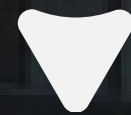
現状

- 県が医療計画を策定
- 実際の医療提供は市町村・民間病院が担っている現状



課題

- 計画に対して、誰が最終責任を負うのか
- 市が近隣市町村民の命への責任を背負うのか
- 県が実態を持っていない場合、広域医療の責任をどう取るのか



計画と実行が分離している
広域化する医療等に対し、責任の構造について議論の余地があると考え